



● 社会奉仕セミナー

社会奉仕委員会 委員長 伊藤 充弘

当日の研修メニューは、ロータリーの社会奉仕の意味や意義に関する一般的な説明に始まり、地区補助金を使って事業を行えるようにするために、地区の委員は承認されるように書類の書き方や言い回しなどの協力することが職務であるという説明がありました。休憩をはさんで、3つのクラブの事例発表があり、最後は宝塚武庫川RCの会員で発達障害の第一人者である竹田先生が講演され、コロナ禍において発達障害を持つ子供たちが危機的な状況にあるという発表をされました。

社会奉仕はロータリアンが「超我の奉仕」を実証する機会であり、地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕することは献身に値することであり、社会的責務とされています。

そして、社会奉仕プロジェクトには、「1. 地域社会と関連していること。2. ロータリアンにとって学びの機会となること。3. 地域社会におけるロータリークラブの役割を見出すこと。4. 現状の支援源をもってロータリアンがどのような援助をできるか判断すること。」以上の4項目が求められています。

また、事例発表の中で「継続して社会奉仕事業を行っていくうちに、平日頃から地域社会の課題に関心を持つようになり、地域のニーズを見つけ出すことができるようになっていくのが実感できる。」と言われ、私たち龍野クラブも見習いたいと感じました。

お伝えしたい話として、竹田先生のお話で「きちんと」や「ちゃんと」などの曖昧言葉が理解できない人が10人に1人必ずいるので、具体的に言わなければ絶対に伝わらないと言われました。具体的に言う訓練を日ごろからすることで、コミュニケーション不足が無くなり、脳も活性化することでしたので、取り組んでみようと思いました。

私たちが社会奉仕事業を継続するきっかけをしっかりと作っていきたいと感じたセミナーでした。



● 職業奉仕セミナー

職業奉仕委員会 副委員長 原 誠吾

今回、私は12月5日に実施された「職業奉仕セミナー」に出席させて頂きましたのでご報告致します。

セミナーは、前半が明石東ロータリークラブの多胡健吾さんによる講演。後半はその多胡さんを交えた質問形式での座談会という内容でした。

講演のテーマは「ロータリー在籍57年に思う（ロータリーの今と昔）」です。多胡さんは昭和5年生まれで今年91歳になられていますが、非常にパワフルな方で、ロータリーに対する熱い思いを非常に熱心に話されました。その話の中で印象に残ったのは、次の二つの言葉です。

一つは、職業奉仕（英訳するとVocational Service）とは、自らと、その職業を向上させ、人の役に立つことである、という言葉。

二つ目は、「不易流行」という言葉です。これは私が勤務する姫路信用金庫の経営計画にも取り入れられている言葉で、「不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくことが金庫の目指すべき姿である」と記されています。金庫の理念にも取り入れられた言葉でもあり、ロータリー活動と職業（自分の仕事）との関係性について、改めて認識することが出来たように思います。

後半の座談会は、私にとって非常に難しいものばかりでした。中々理解出来ない話も多くありましたが、その中で印象に残ったのは、お金の使い方には四通りあるという言葉です。

お金には、「自分のお金を自分で使う」「自分のお金を他人に使う」「他人のお金を自分で使う」「他人のお金を他人に使う」この四つの使い方があるという話です。どのお金の使い方が良いとか正しいのかは、人それぞれの考え方や価値観で変わってくるものと思いますが、お金の使い方一番不正が多いのは「他人のお金を他人に使う」ことだそうです。

私の職業となる金融機関は、まさしく「他人のお金を他人に使う」ことで成り立っており、この言葉は非常に身につまされる思いをいたしました。今後は、仕事の在り方や自分自身のお金の使い方についてよく考えていこうと思います。

このような研修には初めて参加させていただき、非常に緊張もしたのですが、一職業人として、非常に役立つ、有意義な時間を過ごせたのではないかと考えています。

以上、簡単ですが今回の研修報告とさせていただきます。



## ● 国際奉仕セミナー

国際奉仕委員会 委員長 富田 哲 雅

12月4日のロータリー研修デー・国際奉仕セミナーの報告をさせていただきます。

当セミナーは、4部構成となっており、先ず、室津国際奉仕委員会アドバイザーから《RI及び地区の新しい補助金の申請要領、申請テンプレート》と題して次の項目について縷々説明がありました。即ち、ロータリー財団の7つの重点分野（1. 平和構築と紛争予防、2. 疾病予防と治療、3. 水と衛生、4. 母子の健康、5. 基本的教育と識字率向上、6. 地域社会の経済発展、7. 環境）の基本方針やグローバル補助金の資金調達、申請要領及びテンプレート、人道的プロジェクトの実施例等々。

次に、国際奉仕小委員会の安行委員長から補助金について、ロータリー財団の補助金には、地区補助金とグローバル補助金があり、補助金以外の奨学金プログラムはロータリー平和フェロウシップがあることを説明されました。

また、グローバル補助金の人道的プロジェクトの支給対象は以下の要件があることを説明されました。即ち、要件とは、①ロータリーアンが直接参加し、②7つの重点分野の1つもしくは複数に関連し、③成果が持続可能で、かつ④測定可能で、⑤ロータリーが存在する国や地域で実施され、⑥実施国と被援助国のクラブが協同提唱すること、⑦援助側の地域ニーズに合致し、⑧予算総額が3万ドル以上で国際財団活動資金(WF)からの上乗せ上限が20万ドルであることです。

そして、グローバル補助金の資金調達は、3年前の年次基金寄付と前年度の恒久基金の収益の50%が地区に配分される地区財団活動資金(DDF)の半分以上の資金等を使用しますが、その内、人道的プロジェクトでは、クラブ拠出金に対して、DDFが3倍、WFの上乗せが2.4、総額6.4倍となり、DDFの上限が36,000ドルとされると説明がありました。また、申請方法、クラブの参加資格認定、補助金支払い後の報告、協同提唱についても説明がありました。

続いて、奨学金・平和フェロウシップ小委員会の鎌谷委員長から奨学金について、次の通り説明がありました。即ち、奨学金には3つの地区奨学金とグローバル補助金と平和フェロウ奨学金の5種類があり、夫々について、支給対象、採用枠、金額等の内容説明と提唱クラブの負担や募集スケジュールの説明がありました。また、この内、グローバル補助金による奨学金は、クラブ拠出金に対してDDFが6倍、WFの上乗せが4.8倍で総額11.8倍の資金調達が可能であると説明されました。

次に、VTT小委員会の中井委員長より職業研修チーム(VTT)について説明があり、VTTは専門的チームを海外へ派遣するか若しくは受け入れるプログラムですが、これについての資格要件、チーム構成、期間、申請要綱の説明がありました。またVTTに対するグローバル補助金は、奨学金と同様、クラブ拠出金の11.8倍であると説明がありました。(※DDFの上限は、VTT、奨学金共に30,000ドル)

最後に、地区から各クラブにプロジェクトを申請するように要請がありましたが、個人的には龍野クラブの現状を鑑みて、国際奉仕のプロジェクトに限っては、ロータリーアンの参加が要件ともなっていることや地域に大学もなく、海外情報も乏しいことから単独で計画するより、他クラブの適切な国や地域と規模の奉仕プロジェクトがあれば協同参加するのが望ましいと感じました。

また、毎年のごとですが、龍野クラブでは単年度事業が多い中で、今後、補助金の絡む事業は年度を超えて継続するクラブ事業の構築が必要だとも感じました。



## ● クラブ管理運営セミナー (12月5日 午前の部)

会長エレクト 本 條 昇

第一部は「クラブ管理運営の極意 優柔不断から決断できる人になるために」と題して、クラブ管理運営委員会アドバイザーの中村尚義パストガバナーが、クラブ管理の哲学を、日本人のコアパーソナリティとロータリーの西洋哲学を対比しつつ、①管理、②心、③組織、④行動という四つの切り口で解説されました。

第一の「管理」については「意識の三層構造」論に基づいて、日本人が第一階層(感性=情)の「誠心誠意」を重んじるのに対して、西洋では第二階層(知性=知識)と第三階層(理性=意思)が問われる。情だけでは優柔不断に陥る、として、ロータリーで三理一哲(論理学、倫理学、心理学及び哲学)を学ぶことの価値を説かれました。

第二の「心」については、ロータリーの基本は「愛」であるが、日本人が感情移入し易い三つの愛、即ち家族愛、男女愛、友愛に対して、ロータリーのServiceは理性の世界である四つ目の愛、即ち博愛(無償の愛)であると詳説されました。

第三の「組織」については社交クラブの自治性・公平性を、ルールで治める「罪の文化」の西洋的社会（コミュニティ）と教えて治める「恥の文化」の日本の社会（世間）の対比など、「コミュニティ」論からのアプローチで考察されました。

第四の「行動」については、「奉仕の理念」の追求のみで割り切ろうとすれば、クラブは固くなりすぎてゆとりを無くしてしまう。親睦と和合に徹し切ろうとすれば、無限に墮落の方向に進み、優れたロータリアンを絶望させる。この点、管理運営に当たっての尽きせぬ悩みがあり、尽きせぬ工夫が必要とされると同時に、また尽きせぬ喜びが湧いてくる。その苦労の中からロータリアンたる誇りが生まれる、とされました。

第二部では矢坂誠徳クラブ管理運営委員長から「クラブ管理運営マニュアルとその活用」について、第三部では山口 幸オンラインミーティング推進小委員長から「オンラインミーティングの活用」について、講義がありました。

なお、今般セミナーで配布された「心弾む手に手マニュアル」はクラブ書棚に備え置いておりますので、メンバー各位には適宜ご活用頂ければ幸いです。

### ●戦略計画セミナー（12月5日 午後の部）

#### 会長エレクト 本 條 昇

第一部は「ロータリーの戦略計画について」と題して、戦略計画委員長の矢野宗司パストガバナーが、ロータリーの黎明期から今日に至るまでの戦略計画の流れとその方向性を、客観的に解説されました。（内容は2020-21年度「ガバナー月信」6号～9号をご覧ください。）

RI戦略計画に一貫するキーワードは「多様性、柔軟性、革新性」であり、これを押さえておけばRIの動向は理解し易い。そんな流れの中にあって、今後、その対極にある「画一的、硬直的、保守的」なクラブにとっては、舵取りの指針として、RI戦略計画とクラブの文化を踏まえたビジョンと長期計画が有用となる、とされました。

第二部は、矢野パストガバナーが地区研修リーダーの立場から、RLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）の研修スタイルについて説明され、続いて「クラブのビジョンと戦略計画」をテーマとしてセミナー参加者によるRLI方式のディスカッションが行われました。



### ●青少年奉仕セミナー

#### 社会奉仕委員会 副委員長 永 富 靖

##### 青少年奉仕全体について

青少年奉仕の概要及び各プログラムの主な説明はマイロータリー青少年プログラムを参照

<https://www.rotary.org/ja/our-programs/youth-programs>

インターアクトクラブ（IAC）、青少年交換、RYLAの各プログラムの説明と活動状況ローターアクトについては、国際ロータリーにおける位置づけの変化や活動状況。

特に、クラブ会員及びスポンサークラブからの同意を得た場合には、年齢の上限を設定できるが、これは義務ではない。

第34回全国ローターアクト研修会の開催

2022年3月26日（土） 12：00 ～ 27日（日） 15：00

神戸ファッション・ベイシエラトンホテル

